

令和5年度第3回豊田市男女共同参画推進懇話会会議録

- 日 時 令和5年12月15日(金) 午前10時00分～11時30分
- 場 所 とよた男女共同参画センター 21会議室
- 出席者 懇話会委員 石田路子、吉野まり子、尾原洋子、新谷千晶、
池北真一、岩月由紀子、佐竹裕子、古賀康二郎
榎由佳(オンライン)
事務局 市民活躍支援課長 小澤
とよた男女共同参画センター 伊藤、村上、宮地

- 欠席者 石田 祐己

1 開会

小澤課長挨拶

2 議事

(1) 令和5年度男女共同参画社会に関する意識調査の調査結果について

事務局が資料に基づき市民意識調査の調査結果を説明。

<市民意識調査結果について 意見>

A 委員	WEBでの回答割合が思ったより少なかった。年代別のWEB回答者数がわかるか。年齢が高くなるとWEBの割合が少なくなると思う。
事務局	集計内容を確認してお知らせする。
B 委員	性別・年代別で調査結果を集計している設問があるが、他の設問についてもすべて性別・年代別で集計しているか。
事務局	すべての設問で性別・年代別のクロス集計をしているが、資料に載せると膨大な量になってしまうため、口頭での説明とした。性別・年代別で掘り下げたい設問があればご意見を伺い、次回の会議の際に報告をさせていただく。
B 委員	例えば問1の男女平等観について「男性のほうが優遇されている」と答えた人は、男性が多いのか女性が多いのかで意味が変わってくるので、そういう視点で知りたい。また、問16の仕事と育児・介護の両立についての設問は年代別がわかるとよい。

C 委員	今回は男女共同参画と DV 実態調査を 1 つに合わせた調査になったにもかかわらず、前回と同程度の回収率があったということは、設計の工夫や WEB 回答の効果があったのではないかと思います。 問 3 の子どもの育て方や問 8 の地域活動における役割分担の調査結果を踏まえると、女の子が優しい人に憧れたり、男の子が決断力や解決力を身につけている人に憧れ、親も押し付けではなく本人たちの強みを伸ばしたいと思うのであれば、結果が偏っていてもいいのではないかと思います。一方で、“お茶くみをするのが女性”など偏った状況を子どもは見ており、卒なくこなす方が周囲に受け入れられやすいと思って、親は子どもにそうするように言う場合もあり、男女共同参画社会づくりのための意識啓発はとても必要だと思う。また問 6 の男性の家事、育児等への参加の調査項目でテレワークがあるが、これはコロナ禍で大きく進んだ点で、会議のオンライン参加などができるようになったことで恩恵を受ける人も多いと思うので、今後も進んでほしい。仕事と育児・介護の両立について、働き方を変えてもいい、リモートや仕事の比重を減らしてでも仕事を続けたいと考える人が多いのであれば、受け皿を増やしたり、そのような条件でも働いてほしいと考える企業との橋渡しをしてくれる機関があるとよい。
事務局	問 6 の男性の家事、育児等への参加の調査項目については前回から最もポイントが増えた項目がテレワークの項目である。
A 委員	問 16 仕事と育児・介護について、育児と介護を一緒にするのは違う。育児と比べて介護で離職するのは男性が多く、育児と介護では結果が分かれると思う。
事務局	説明では育児と介護をまとめたが、設問では別々に回答されているので介護離職と育児離職の違いなど、後日詳しい分析結果を示す。
D 委員	問 30 豊田市の取組の中で「女性の活躍」という項目があるが、男性の介護離職やシングルファーザーなどの問題もある時代になってきているので、「男性の活躍」という項目があってもいい。
E 委員	女性の防災への参画について、設問の変更により指標の実績値が上がったとのことだが、どのような変更の結果なのか。また、DV 被害について、様々な施策や相談窓口があるにも関わらず、相談できた人の実績値が低い。DV 被害について相談しなかった理由として、窓口等を知っているのに相談しなかったという結果があるので、その理由がわかれば解決策も考えられる。
事務局	防災の設問については、前回は「地域防災を推進するにあたって必要なこと」の設問の 1 つとして「女性の視点」が入っていたが、今回は「防災における男女共同参画を進めるための女性参画」の設問の中に「女性の参画は必要ない」という選択肢があり、それ以外の選択肢は

	女性の参画が必要という内容になっているため、結果が大幅に変わったと思われる。
事務局	DV 被害の相談については、問 24-3 で相談しなかった理由を聞いて、「相談するほどのことでもないと思ったから」「自分さえ我慢すればなんとかこのままやっていけると思ったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」「家族に心配をかけたり、他人を巻き込みたくなかったから」「相談してもわかってもらえないと思ったから」の順に多く、「誰に相談してよいのかわからなかったから」はそれに続く 6 番目となっている。
E 委員	DV 被害者が次に進むためには、自分が受けた DV をきちんと捉えることが大事だと思うので、そういう方たちこそ相談して自分の気持ちの整理をしてほしいと思うし、相談に行きやすい状況を作してほしい。
事務局	今回、「相談をしなかった」「相談窓口を知らない」という回答が多かった。「窓口の認知度」や、「相談するほどでもない」「自分だけ我慢すればよい」といった意識については課題だと捉えている。
D 委員	DV に関しては、専門知識がある相談員の対応で、24 時間体制が望ましいのは当然だと思うが、きちんと対応してくれるプロなのかという不安があるのではないかと。二次的な被害のニュースなどもあったり、軽く扱えることではないので、安心して利用してもらえるよう丁寧に説明しないといけないと思う。
事務局	DV の程度に合わせて対応しているが、様々な部署に関わってくることなので、市役所内で連携していくことも必要。しかし、最初の相談窓口を知ってもらう必要がある。最初から警察に行ってもよい。市や県の相談員もしかるべき相談員だが、それが知られていないということやはり課題であるため、この懇話会でもご意見をいただき、次のプランに活かしていきたい。

事務局が資料に基づき事業所調査の事務局案を説明。

<事業所調査について 意見>

F 委員	職場でも両立に関する制度を整えているが、制度が充実すればするほど女性に負担が集中してしまうという声があり、男性も制度を活用していくという意識を醸成していかなければいけないと思う。職場の風土として上司の理解がない、周りの人に負担がかかると気を遣ってしまい休めないなど、制度を使うことで評価が下がるのではと気にしている人が意外と多く、そういったことに対しては地道に
------	--

G委員

理解促進を進めていくしかない。男性の希望者は育休を 100%取りましようという取り組みを行っているが、まだまだ職場の意識については変えていく必要がある。

H委員

問3の「子どもに身につけてほしい能力」で男女格差があるにしても、現在の学習指導要領で言われている対話的な部分がこれからの社会にも必要であると認識されているとわかり、自信と後押しになった。職場については、産休や育休の取得や男性の育休取得も進んでいると思うが、短時間勤務の職員がいると若い職員が多かったり、職員不足の問題もあり、2人で学級担任をすることになる。小学校では担任が1日ずっと生徒を見るのが当たり前と認識されているため、「担任が2人ではちゃんと子どものことを見てもらえないのではないか」という声上がる不安がある。社会全体として、多様な働き方に対する理解が進むとよい。

I委員

自分自身としては性別問わず、決断力や優しさなどを持つように子どもたちに言っているが、大人になって社会に出ると違うとらえ方をされることもあるため、難しいと思った。また、女性の休暇の取得が多いという結果だが、女性は子どもの看護や行事の対応で休むことも多いので、女性の休暇取得が多いのも一概に喜べることではないと思った。また、教員は人手不足で、制度がどんどん進んでも、周りの負担が重くなってしまうため、休暇を取りやすい雰囲気を作るためには周りの人に負担がかからないような制度作りが必要になると思う。

事務局

事業所の回答率が34.3%低く寂しい。市民意識調査と違い、仕事の範疇で回答するのであればもっと高くてもいいと思う。回答率向上のために、宛先を「担当者」や「御中」ではなく、代表者にしてみてもどうか。また、市民、事業所に続き、豊田市の議員の意識調査をしてほしい。

A委員

事業所アンケートについて、丸を付けるだけならよいが、育休を取った人の数など、資料を見たり計算が必要な設問があり、面倒に思われる可能性がある。必要な数値ではあるが、できるだけ手間をかけないよう次回以降検討していく。

指標の目標値がそもそもこの数値でいいかどうか検討していく必要がある。

事務局が中学生アンケートの状況について説明。

3 閉会